

科目コード	R7030	科目名	高齢期作業療法学演習				
履修区分	必修	開講期	3年前期	授業回数	15回	単位数	1単位
担当者	宮崎 洋幸・渡邊 哲也						
授業の概要	高齢期作業療法学で脳機能、身体、精神に関する知識を統合する力を養い、これらについて演習をとおして、学びを深める。参加型の演習を実施する。						
DPとの関連	慈愛ある豊かな人間性と人間を広い領域から捉える教養を身につけている						
	理学療法・作業療法を実践するための専門的知識・技術を身につけている						
	生命の尊厳や人間尊重を基本とする高い倫理観を持ち、自律して行動できる思考力や判断力を身につけている						
	理学療法士・作業療法士として課題を解決しようとする情熱と創意を持っている						
	地域社会・国際社会の一員として、専門職種と協働できる専門知識、コミュニケーション能力を身につけている						
2025年度以降の学則適用者用のDPとの関連を記載しています。2024年度以前の学則適用者は項目順や表現が異なりますので注意してください。 DP：ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）=卒業までに身に付けるべき資質・能力							
到達目標	高齢期における作業療法の目標設定ができる。 高齢期の対象者について、評価・観察項目を選択することができる。						
履修上の注意事項	実際場面を想定した事例を用いた演習をグループで実施します。欠席をしないよう体調管理をしてください。受講態度として、許可のないスマートフォンの使用を禁止とし、授業に関係のない私語や居眠りを慎んでください。						
授業計画	回数	講義内容【担当教員】				事前・事後学修	
	1	オリエンテーション 高齢期作業療法の介入概論【宮崎】				受講シート・課題レポート作成（60分）	
	2	高齢者の評価演習 観察（居室・ADL・APDL）・面接【宮崎】				受講シート・課題レポート作成（60分）	
	3	高齢者の評価演習 MMSE・HDS-R【宮崎】				受講シート・課題レポート作成（60分）	
	4	高齢者の評価演習 SDS・バラチェック老人行動評定尺度・STAY など【宮崎】				受講シート・課題レポート作成（60分）	
	5	福祉用具と日常生活支援演習 家屋改造【宮崎】				受講シート・課題レポート作成（60分）	
	6	福祉用具と日常生活支援演習 離床と広義のシーティング【宮崎】				受講シート・課題レポート作成（60分）	
	7	福祉用具と日常生活支援演習 ノーリフト介助と福祉用具の活用1【宮崎・池田・大前ほか】				体験レポート作成（60分）	
	8	福祉用具と日常生活支援演習 ノーリフト介助と福祉用具の活用2【宮崎・池田・大前ほか】				体験レポート作成（60分）	
	9	症例検討 情報収集と評価【宮崎】				受講シート・課題レポート作成（60分）	
	10	症例検討 統合と解釈・レジメの作成【宮崎】				受講シート・課題レポート作成（60分）	
	11	認知症高齢者に対する接し方【渡邊】				課題作成(60分)	
	12	認知症ケアメソッドの活用【渡邊】				生活の中での介入技術の活用(60分)	
	13	認知症ケーススタディ 情報収集と評価計画【渡邊】				レポート作成(60分)	
	14	認知症ケーススタディ 評価と介入【渡邊】				レポート作成(60分)	
15	認知症ケーススタディ 課題分析と目標設定【渡邊】				レポート作成(60分)		
成績評価方法	期末に提起するレポート課題にて評定します。（宮崎60％・渡邊40％）。また、双方6割以上の獲得で単位評定をします。ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。						
教科書	書名・著者（出版社）					ISBNコード	
	老年期の作業療法 改訂第3版・浅海奈津美 他（三輪書店）					978-4-89590-638-8	
ひとと集団・場 新版・山根寛（三輪書店）					978-4-89590-615-9		
参考書	認知症の作業療法・小川敬之 他（医歯薬出版）					978-4-263-21334-6	
	知的検査の手引き・大塚俊男 他（ワールドプランニング）					987-4-948742	
教員からのメッセージ	課題を通して、評価やプログラム立案のプロセスを理解してください。課題の作成に関する疑問点、不明点は積極的に質問をしてください。						
教員との連絡方法	メール：miyazhiroy@hcu.ac.jp（宮崎） watanabe777@hcu.ac.jp（渡邊）						
実務経験のある教員	池田充宏先生、ほか；日本基準寝具株式会社にて在宅介護・通所サービスの統括責任者として、対象者の対応はもとより部署の管理・運営に携わっている。福祉用具普及事業の一環として、各所を回り、講習会の開催をしている。「抱えない介助方法」「福祉用具の有効な活用方法」について実務的にも精通している。						